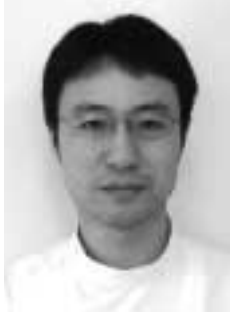


睡眠時無呼吸症候群について

夜眠っている時、いびきをかいているとか、息が止まっているとか言われたことがある方、睡眠時間は充分とっているのに、疲れが取れない、日中に眠気がするなどの症状がある方は、睡眠時無呼吸症候群という病気かもしれません。睡眠時無呼吸症候群とは字のごとく、「睡眠時に「無呼吸」となる病気です。寝ている時にいびきをかいたり、少し息が止まったりするくらい、別にたいしたことないと思われるがちですが、これがなかなか怖い病気なのです。



内科医長
やまもと ひろゆき
山本 司生

この病気の方の寿命は短く、5年後に生存している可能性は84%で、8年後には60%にまで下がります。その原因は、眠っている間に息が止まることで、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、高血圧、高脂血症、動脈硬化、不整脈などを引き起こすからです。その率は健康な人の約6倍にもなります。また、日中の眠気で事故を招く原因ともなります。平成15年の山陽新幹線の事故や、昭和61年の米スペースシャトル「チャレンジャー」爆発事故もその一例です。身近なところでは、車の運転中の事故があげられ、その事故率は、健康な人の約7倍となります。この病気は、人口の約4%が抱えており、決して他人事ではありません。この病気かどうかを調べるためには、検査が必要です。検査は、携帯電話くらいの大きさの機械を自宅に持ち帰り、指にサツクのようなものをはめて寝ていただきます。寝ている間の血液中の酸素の状態を調べること、大まかな診断がつかえます。治療法としては、機械とマスク

を使つた「持続陽圧呼吸法」や、マウスピースのようなものを口にくわえる「スプリント法」などがあります。

西伯病院では、この睡眠時無呼吸症候群の検査、治療を行っています。治療を行うことで、いびきや眠気などの症状を改善し、合併症や事故の発生率、寿命を健康な人と同じレベルにまでもどすことが可能です。気になる方は一度内科外来を受診ください。詳しくご説明させていただきます。

町民の皆様へお詫び
すでに新聞等で報道されました、当院の元医師が在職中に担当患者のカルテ情報の一部を持ち出していたことについて、患者様をはじめ住民の皆様にご不快、ご心配をおかけしたことに深くお詫び申し上げます。今後、二度とこのようなことが起きないように、個人情報管理の重要性について研修を行うなど、職員へ周知徹底し、再発防止に努めます。

第11回健康講座のご案内

- 期日 / 8月7日 (火)
- 時間 / 午後1時30分～午後2時30分
- 場所 / 西伯病院1階 地域交流ホール
- 講師 / 庄司洋子先生 (小児科医長)
- 内容 / 熱中症について

熱中症は、暑熱環境で発生する障害の総称で、熱失神、熱疲労(熱ひはい)、熱射病、熱

けいれんに分けられます。適切に予防すれば防ぐことができますが、知識が十分に普及していないため、熱中症による死亡事故が毎年発生しています。子どもたちを熱中症から守るために予防方法、応急処置方法などをわかりやすく説明しますので、皆さんお気軽にご参加ください。

